

# 研修会の報告書



尼崎市議会議員 三浦 かな

学びの多様化地方議員連盟の勉強会

日時:2025年12月18日(木)20時～21時半

講師:橋本直樹氏 元小学校長(大阪府豊中市)

テーマ:インクルーシブ教育の実践と歴史から学ぶ

～学校が変わるという選択～

本報告書では、主に三点について述べます。まず、「学びの多様化地方議員連盟」についてです。学びの多様化地方議員連盟は、2024年9月に発足した地方自治体議員による超党派の議員連盟です。

不登校、障がい、外国にルーツを持つ子どもなど、多様な背景や教育的ニーズを持つ子どもたちの実態を把握し、必要な支援を制度として実現することが目的です。

学校内外を含めた「学びの多様化」を推進するため、各自治体の地方議員が連携し、地域の実情に即した政策立案・提言、共通課題については国政に対して意見交換や提言を行います。

毎月勉強会を開催しており、今回は大阪府豊中市立南桜塚中学校で校長を務めておられた橋本氏が講師を務められました。

次に、勉強会で特筆すべき点を三つ述べます。

一点目は「通常学級で、すべての子どもが安心して学ぶ環境づくり」です。橋本氏からは「通常学級ですべての子どもが安心して学ぶ環境を、どのようにつくるのか」という問いが繰り返し示されました。

豊中市では、全盲の子どもが地域の学校へ入学する際、入学の三年前から準備を開始し、学校・行政・保護者が時間をかけて環境整備と合意形成を行ってきた事例が紹介されました。

また、豊中市では就学相談を「判定の場」とは位置づけず、その子が地域の学校に入学した場合に、どうすれば安心して学べるかを共に考えるスタート地点と捉え、保護者との信頼関係づくりを最重視しているとのことでした。

豊中市の実践では、特別支援学級に在籍しながらも、生活の大部分を通常学級で送るといった柔軟な形が取られています。特別支援学校の存在を否定するのではなく、「すべての子どもの進路選択が狭められてはならない」「行政が一方向的に進路を決めるべきではない」という考え方が根底にあります。

二点目は、豊中市におけるインクルーシブ教育の歴史的背景です。1972年当時、病気による就学困難ではなく、「教育の枠の外」に置かれていた就学猶予・免除の子どもが市内に34人存在していました。これを契機に、1973年に不就学児親の会が発足し、保護者と教職員が連携して家庭訪問を重ね、学ぶ権利の回復に取り組んできました。

障がいのある子どもの保護者からは「小学校入学前までは近所の子どもと公園で遊んでいたのに、なぜ小学校だけは校区の学校に通えないのか」という切実な声上がり、地域で学ぶことへの強い要望が行政を動かしていきました。その結果、豊中市は全国に先駆け、以下の方針を策定しました。

- ・1978年 豊中市障害児教育基本方針
- ・1971年 豊中市同和教育基本方針
- ・1980年 豊中市在日外国人教育基本方針

三点目は、橋本氏が校長時代に実践されていた取り組みについてです。一点目は、支援学級の教員、介助員、通常学級の教職員がインカムを用いて、臨機応変に連携していたことです。橋本氏は、「教職員は、すべての職員がすべての子どもを担当するという共通認識を持つことが大切です。学校の教室や空間は特定の子どものものでなく、子どもたち皆のものであります。教育は多数決ではなく、一人ひとりの尊厳を基点に考えるべきです」と述べられました。

二点目は、教職員に対し、日常的に以下の三つの基本方針(豊中市障害児教育基本方針(1978年)、豊中市同和教育基本方針(1971年)、豊中市在日外国人教育基本方針(1980年))を読み返すよう促し、インクルーシブ教育の原点を常に意識させていたことです。

三点目は、近年フリースクールや「学びの多様化」が進む一方で、結果として学校から子どもを切り離す「分離」が進んでいるのではないかと、場を増やすこと自体が目的化し、学校から排除される子どもが増えていないか、という問題提起がなされたことです。

最後に、尼崎市で活かしたい点について述べます。私は議員となって以降、障がいや特性のある子どもの保護者が、特別支援学校、特別支援学級、通常学級という選択肢の中から、遠慮することなく「本当に望む進路」を選べる社会を目指して活動してきました。

しかし尼崎市においては、「本来は地域の学校に通わせたかったが、教員不足や現場の負担を考え、特別支援学校を選ばざるを得なかった」という声もあり、制度上の選択肢が実質的に制限されている現状があります。

今回、橋本氏のお話を伺い、豊中市の取り組みは「誰もがともに生きる地域社会をつくる」という長期的な人権教育の積み重ねの上に成り立っていると感じました。そのため、尼崎市が同様に、障がいや特性のある子どもたちが100%通常学級で学ぶ体制を直ちに実現することは容易ではありません。

それでも私は引き続き、障がいや特性のある子どもやその保護者が遠慮することなく、特別支援学校、地域の学校、さらには進学

先について主体的に選択できるよう、相談支援を続けていきたいと考えています。また、障がいや特性があっても地域の学校で学ぶという選択肢があることを、より多くの保護者に知っていただけるよう、啓発活動にも取り組んでいきます。

学びの多様化  
地方議員連盟  
このミカが学びをひろげる

オンライン勉強会  
インクルーシブ教育の実践と歴史から学ぶ  
〜学校が変わるという選択〜

12/18 (Thu)  
20:00-21:30

オンラインZoom  
(アーカイブあり)

橋本直樹氏  
(元)小学校長  
(大阪府豊中市)

## 12月18日 インクルーシブ教育の実践と歴史から学ぶ〜学校が変わるという選択〜

イベントは終了です | (木) 20:00 | オンライン | BY 学びの多様化地方議員連盟

社会貢献/地域活性 | 教育 | 子育て | 社会課題 | 防災 | 建設

【一般の方も参加OK!】

インクルーシブ教育の実践と歴史から学ぶ  
〜学校が変わるという選択〜

特別支援教育や不登校対応、多様な学びが議論される今、「ともに学ぶ学校づくり」はどのように進めてきたのか？  
長年豊中市の学校教育に携わってきた実践者から、学校づくり・現場支援・制度背景を総合的に学ぶオンライン勉強会です。

### ■概要

開催日時：2025年12月18日 (木) 20:00~21:30

開催形式：オンライン開催 (Zoom)

・当日の参加が難しい方もご安心ください。

後日アーカイブ (録画) 配信あり

※お申し込みいただいた方全員に勉強リンクをお送りします。

### 🎫 チケット

講演会員

¥1000 販売終了

非会員 (議員)

¥2000 販売終了

非会員 (一般)

¥2000 販売終了

### 📅 日時

2025/12/18 (木)

20:00 - 21:30 GMT+09:00

カレンダーに追加

### 📍 場所

オンライン

■対象

- ・議員（議連会員／非会員）
- ・自治体職員

・教育委員会・学校関係者

・インコンネットにスウェッチ・教育・福祉・子ども支援関係者

・インコンネットにスウェッチ教育・不登校支援・多様な学びに関心のある方

■参加費

議連会員	1,000円
非会員（議員）	2,000円
非会員（一般）	2,000円

■内容

今回の勉強会では、豊中市で長年インクルーシブ教育を推進され、学校現場・行政の両側面から取り組まれてきた橋本直樹氏を講師にお迎えします。

- ・「子どもを分けない」学校づくりの思想と歴史
- ・豊中市での制度改善・現場支援の実態
- ・学校づくりを進めるうえでの憲法・合憲形成
- ・今後の教育現場・自治体で取り入れられる視点

明日から現場で生かせる視点と、政策や実務につながる具体的なヒントが得られる機会です。

▶講師プロフィール

橋本直樹氏

元小学校校長（大阪府豊中市）